

## Topics / Insight

### 2022年3月の注目ディール: コインチェックがDe-SPACによりナスダック上場

2022年4月13日

#### マネックスグループにとっての2社目のDe-SPAC

2022年3月22日、マネックスグループ子会社のコインチェックは、ナスダック市場に上場しているSPAC(特別買収目的会社)との合併を通じて同市場への上場を目指すことを公表しました。株式評価額は1,500億円(アーンアウト分を含めると2,100億円)です。2018年、暗号資産の不正流出事故後にマネックスグループが買収した時点での価値は36億円でしたので、約4年間で企業価値を大幅に拡大させたこととなります。

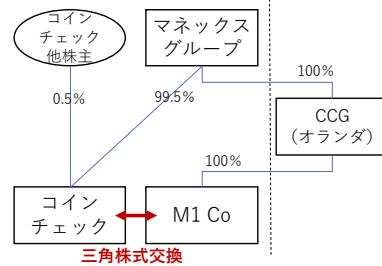
マネックスグループは2021年11月にも、子会社のトレードステーションをDe-SPACによりニューヨーク証券取引所に上場させており、僅か半年間の内に2社のDe-SPACに取り組むことになりました。

#### De-SPACのストラクチャー

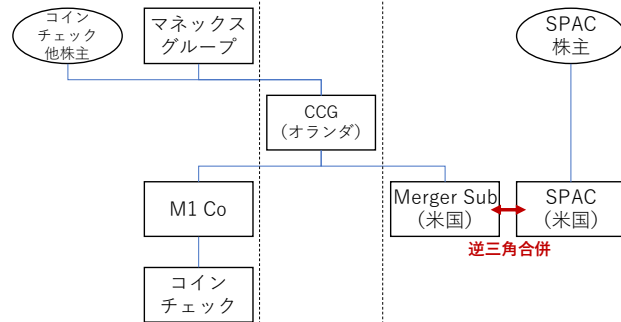
トレードステーションは米国企業であるため、2021年における同社のDe-SPACは、SPACとの合併とスポンサー企業に対する第三者割当増資の組み合わせであり、比較的単純なストラクチャーでした。一方、今回のコインチェックは日本企業であるため、米国企業であるSPACと直接合併することが出来ません。そのため、以下のような少し複雑なストラクチャーを採用しています。

- ① マネックスグループがオランダに中間持株会社(コインチェックグループ: CCG)並びに同社100%子会社のM1 Co(日本法人)を設立。
- ② M1 Coが、日本の会社法の下で、CCG株式を対価としてコインチェック株式を取得する三角株式交換を実施し、コインチェックを完全子会社化。
- ③ CCGは米国デラウェア州に本件買収ビークルとして子会社(Merger Sub)を設立。
- ④ Merger SubとSPACがSPACを存続会社とする逆三角合併を実施し、SPAC既存株主に対してCCG株式を交付。CCGはSPACを完全子会社化するとともに、ナスダックに上場を申請。

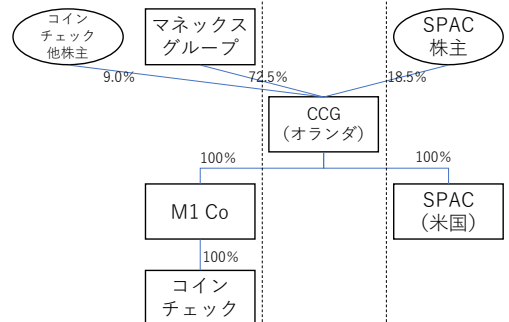
#### <持株会社等設立後>



#### <三角株式交換後>



#### <逆三角合併後>





## Topics / Insight

これら一連の取引が実施された後の持株比率は、マネックスグループ約 72.5%、コインチェックの既存株主約 9.0%、SPAC の既存株主 18.5%となる見込みです(既存株主による償還請求、アーンアウト、追加資金調達等は考慮前)。

### ナスダック上場の意義

現在日本の証券取引所では、暗号資産取引業者の IPO 申請が受け付けられていません。そのため、上場による資金調達や既存株主のキャピタルゲイン実現も見通せない状況です。同業のビットフライヤーでは、主要株主がファンドへの売却を模索していると言われていました。

一方、コインチェックは、クロスボーダー型の三角株式交換と、米国における逆三角合併の手法を組み合わせ、ナスダック市場に上場することになりました。一連の取引の結果、持株会社となる CCG は SPAC が保有する 237 百万ドルを得ることに加えて、今後新たな投資家からの資金調達の可能性もあるとのこと。米国で調達されるこれらの資金は、コインチェックのシステム基盤の強化、新規ビジネスの開発など更なる成長投資に活用されます。

コインチェックにとってナスダック上場は、マネックスグループ傘下の非上場企業から、グローバルに展開する金融プラットフォームへと進化するために踏み出した一歩であると言えるでしょう。加えて、オランダの持株会社を要とする体制は、今後のビジネスの新たなグローバル展開を見据えたものと考えられます。

トレードステーションとコインチェックを米国上場企業として傘下に有するマネックスグループが、今後どのような事業展開を見せるか引き続き注目したいと思います。

### <問い合わせ先>

ベネディ・コンサルティング株式会社

Mail: [info@benediconsulting.jp](mailto:info@benediconsulting.jp)

Web site: <http://benediconsulting.jp>